

④ エダマメを育てよう

窒素肥料やりすぎ注意

エダマメは夏の味覚として人気が高く、家庭菜園ではとれたてをゆでて食べる醍醐味があります。上手に栽培してビールのつまみやおやつとして味わいましょう。中国東北部原産で、生育適温は25～28度の高温と多湿を好みます。やせ地でも栽培でき、土壌の適応性は広いですが、連作は嫌います。栄養面ではタンパク質やビタミンC、ビタミンB1などを豊富に含む栄養価の高い野菜です。

1. 畑の準備

植え付けの2週間前までに1平方メートルあたり苦土石灰100グラムを施し、土をよく耕します。その1週間後に、1平方メートルあたり堆肥2キログラム、化成肥料（成分8・8・8）60グラムを施して耕し、幅が60センチの畝（床幅40センチ、通路20センチ）を作ります。水はけの悪い場所では生育不良になりますので、10センチ程度の高畝にします。窒素肥料のやりすぎは葉だけが茂り、実の付きが悪くなるので気をつけましょう。

2. 播種

春と夏の2回播種できます。春は5月上旬から中旬ごろ、夏まきは7月中旬から8月下旬ごろまでにまきます。品種によりまき時が異なるので種子の袋で確認します。株間は20センチで1カ所3～4粒まき、2センチ程度覆土します。

3. 鳥害対策

発芽までに鳥の被害を受けやすいのでネットや不織布などで被覆します。本葉が出たら被害がなくなるのでネットなどを外します。

4. 間引き

本葉が2枚のころ生育の良い苗を残し、間引きをして2本立ちにします。引き抜くと根を傷めるのではさみで根元から切ります。

5. 土寄せ、追肥、かん水

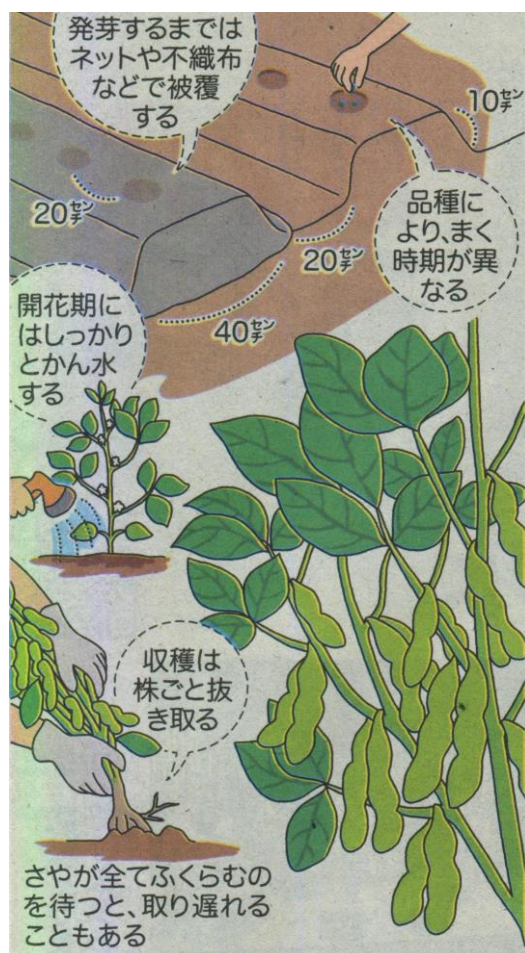
間引き後、本葉3、4枚の時に除草と倒伏防止のために畝を軽く耕し、株元に土を寄せます。追肥は、開花期に化成肥料（成分8・8・8）を20グラム施します。特に開花期の乾燥はさや付きが悪くなるので、土壌が乾燥していたらかん水をします。

6. 病虫害防除

6月以降はカメムシの被害が多いので、防虫ネットなどで被覆すると被害を防げます。農薬を使用する場合は、トレボン乳剤などで防除しましょう。

7. 収穫

さやがふくらんだら収穫を開始します。株ごと抜き取ります。適期は1週間程度なので早めの収穫を心がけましょう。



（鹿児島市都市農業センター）